
育てる側・育つ側

株式会社 Kaspersky Labs Japan 情報セキュリティラボ
Under40 部会 部会長
前田 典彦



多くの業界、各企業や組織にとって、人材育成はおそらく永遠のテーマであり、課題です。情報セキュリティの分野においても同様であることは、みなさまご案内の通りかと存じます。

JNSA Under40 部会(以下 U40 部会)は、40 歳以下の若年層の方々を構成メンバーとして活動している部会です。ほかの部会は、活動のテーマと内容が具体的で、それが部会やワーキンググループの名称からも見てとれるかと思うのですが、U40 部会だけは少々性格を異にするような気がしています。そもそも、部会の名称だけを見ても、若手の部会である以外に内容は見えてきません。

U40 部会は、JNSA 設立当初から存在したわけではなく、部会としての活動が始まったのは 2007 年からとなっています。実は、当社が JNSA に加盟したのは同じ 2007 年の 12 月ですので、私自身は U40 部会発足当初から関わっているわけではないのですが、発足初年度の部会活動趣旨として、若年層の積極的な運営参加による団体の若返り、会員間の交流の強化、若年層の活動活性化のための情報流通強化、セキュリティ業界・社会への貢献・関与などを目的とする、とあります。これは、現在の部会においても引き続き目的としているところであり、発足当初からぶれることはなく継続していると自認しています。

例えば、U40 部会が主催する勉強会を通じて、知識知見の拡張や深耕を行い、いろいろな方々にお会いしてお話をする中で幅広く人脈の形成ができる活動は、将来きつとどこかで必ず役に立つときが来るであろうと思いますし、なにより、やっている当人たちが楽しんでいるところが特長だと感じています。

私が数年間 U40 部会の活動に参加してきて、一つ思うことがあります。至極当然のことではありますが、「待っていては何も起きないし、楽しくない」ということです。受け身であることは楽なこともある反面、それに慣れてしまうと、いざ自身で考え行動する必要に迫られたときに、おそらくパフォーマンスを上げることはできないでしょう。

今年の DEFCON(世界最大のハッカーイベント)における Keith B. Alexander 氏の基調講演に、興味深い発言があります。「サイバー空間を防衛するために米国が必要とする人材がこの中にいる」という趣旨です。氏は米国国家安全保障局(NSA)および中央保安部(CSS)の長ですので、その発言は非常に深く重いものであることは容易に推測できますが、先述の受け身であることと対極に居るような人々に対し「君たちの力が必要だ」というアプローチを行うことは、

人材育成の観点では非常に効果的であると感じました。残念ながら私自身は日本に居たので、会場の雰囲気を感じることができたわけではないのですが・・・

人材を育成する必要がある側と、その対象者層との間の調和と意図の適合が、人材育成の鍵であるように思います。単なる教育とは全く性格を異にすることは明白です。U40部会の構成メンバーの多くは、年齢層としても立場としても育つ側にあるわけですが、こういったことを念頭に今後も活動していければと考える次第です。

最後に、U40部会はいつでも新規部会員を募集しています。JNSA会員企業のかたで40歳以下であればどなたでも参加できますので、是非お気軽にお声掛けいただければ幸いです。